



鏡のように穏やか水面に、最近になって渡ってきたカ
ンムリカイツブリ、ホシハジロ、キンクロハジロなどが
餌をとりながらのんびり浮いていました。今日は、ダム
の上を北上し教育センターを目指しました。ソメイヨシ
ノは早々と葉を落とし、ヤマハゼの赤、プラタナスの黄
色がきれいでしたが、雑木林の紅葉はこれからです。落
ち葉の上に大量のどんぐり。限られた場所を見ても一
体いくつあるのか想像も付きませんでしょう。



イソノキの紅葉

緑色、黄色、茶色、赤といろい
ろな色が混ざってきれいな紅
葉です。愛知池の道沿いでよく
見られる木です。



ハルノノゲシ

原産地は欧州で、春から夏に
かけて咲く花です。暖かい日
が続いたので何株も咲いてい
ました。チャンスがあればい
つでも実を作るという戦略で
しょうか。



スジアカハシリグモと思われる

体長 10 ミリほどで、水資源公
団の門の辺りにいました。脚
が一部無くなっています。こ
のまま越冬します。



カラスウリクキフクレフシ

カラスウリの蔓（茎）にでき
る虫瘤で、タマバエの仲間が寄
生してできたものです。



マツヘリカメムシ

桜の木の下に置いたデイパッ
クに付いていました。体長 15
ミリ。北米原産。2008 年東京
都小金井市で最初に採取され
ました。後脚が長いのが特徴
です。成虫で越冬します。愛
知池では 2016 年秋に初見。



ツチグリ

袋状の茸で、成熟すると外皮
がいくつにも裂けます。乾燥
すると反り返り蛸のようにも
見えます。フクロの中央に穴
が開いていて、茶色い胞子を飛
ばします。



アリ地獄

薄暗い場所だったので見えなかったのですが、写真を拡大したら中央に幼虫の姿が・・・

・・・ありました。それに気づかず掘り起こしたら下の写真のようなウスバカゲロウ幼虫が顔を出したのです。このように腹部を丸めている姿を見るのは初めてです。雨の当たらない砂地がなく数が減っています。



ハラビロカマキリ卵

最近では外来種ムネアカハラビロカマキリの卵(右下)の方が普通になってしまいました。



イイギリ実

ヤナギ科の木で、葉の形や大きさはアカメガシワに似ていません。昔、葉を初期代わりに使用。



ホシハジロ 上はエクリプスとよばれる状態。雄は夏季、敵から身を守るため雌のような地味な色をまとい、次第に雄らしくなる。



カンムリカイツブリ

まだ数羽ですが、愛知池には毎年大きな群がやってきて冬を越します。

植物 ヒメジョオン、ハルノノゲシ、ブタナ、キツネノマゴ、カタバミ、ノコンギク、セイタカアワダチソウ、コセンダングサ、ビワ、衣服に付いた実(イノコズチ、チジミザサ、コセンダングサ)、コウヤボウキ残り花、実(カラスウリ赤、スズメウリ白、ヒヨドリジョウゴ赤、サカキ黒、ヒサカキ黒、クロミノニシゴリ黒、イイギリ赤、カナメモチ赤)、**昆虫** キタキチョウ、ツマグロヒョウモン、クロコノマチョウ、アオアツバ、エグリヅマエダシヤク、シモフリヤマガタアツバ?、みの虫(ネグロミノガ、ニトベミノガ)、ショウリョウバッタモドキ、ツチイナゴ、マツヘリカメムシ、ヒゲナガアブラムシの一種(ハルノノゲシ)、ショウリョウバッタモドキ、クサヒバリ声、ハラビロカマキリ卵のう、マユタテアカネ、オオアオトンボ、アキアカネめす、アリ地獄(ウスバカゲロウ幼虫)、クロウリハムシ、アメリカジガバチ巣、オオハナアブ、キゴシハナアブ、ツマグロキンバエ、ユスリカの一種、**クモ** ジョロウグモ雌雄、ナガコガネグモ、スジアカハシリグモ、アシナガグモ、ワシグモ科?、**鳥・その他** カワセミ声、ウグイス地鳴き、カワウ、オシドリ、カルガモ、マガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カンムリカイツブリ、カイツブリ、コガモ、オオバン、ヒメフナムシ、ウスカワマイマイ、カワニナ、タニシ、ニゴイ(虫こぶ)カラスウリキフクレフシ(タマバエの仲間)、ヨモギクキマルズイフシ(ミバエの仲間)(茸) ツチグリ、背着生キノコ

次回は、12月9日(木)午前9時30分、水資源機構P前、参加費 100円 コロナ非常事態下と雨天は中止